

目的 羊毛の漂白効果は、家庭で行なわれる各種後処理によって変化を受けるものと考えられる。前報¹⁾では、後処理の漂白効果への影響について、羊毛白度及びアルカリ溶解度の測定を行ない、化学的損傷の観点から報告した。本報では、物理特性の変化に着目し、同様の後処理を行なった試料布について検討した。更に、両者間の関連についても考察を行なった。

方法 前報¹⁾と同様に、薄手の毛織物を使用し、漂白を行なった後、洗たく、日光照射、アイロンかけによる後処理、更に、これらを組み合せた後処理を行ない、試料を作製した。これらの試料について、KES-FBシステムを用いて、曲げ特性、引張り特性、表面特性の測定を行なった。

結果 1)、漂白布の物理特性は、未漂白布に比べて著しく異なった。すなわち、曲げ剛性は高い値を示し、引張り強度は低下し、表面特性は、滑りにくく、ざらついた。後処理を行なうことによっても同様の物理特性の変化を示した。しかし、漂白濃度による影響は、あまり見られなかった。2)、後処理を組み合せた場合、単一で後処理を行なった場合に比べて、物理特性の変化は著しく、漂白濃度が高いものほど、この傾向を明確に示した。3)、漂白及び後処理による化学的損傷と物理特性の劣化は、相似関係を示した。しかし、物理特性は、化学的特性ほど顕著な変化を示さなかった。

1) 山口、別宮 昭和61年度関東支部家政学会要旨集